

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	歴史民俗資料館	No.	01
事業名	文化財保護事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	町内に残っている貴重な文化財について保護・保存に努め、次世代に継承していく。 また、見学や体験等により文化財を活用し、学校教育・生涯学習に寄与する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定文化財の保護と普及 ・ 新しく指定文化財となりうる物件の調査 ・ 町史に関する調査 ・ 埋蔵文化財の保護と開発に係る調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能の継承と普及（学校との交流） ・ ・ ・ 		
現在における 経過又は課題	<p>伝統芸能について、保存・継承に苦慮している。平成 21 年度より実施している、大口北小学校との交流会を通じて、保存会に活気が出ている地区もあれば、活動自体の継続が難しくなっている地区もある。そもそも、伝統芸能の活動について、地区によってその危機感に温度差があるため、継承への道のりは険しいものとなっている。</p> <p>町内に所在する指定文化財について、平成 23 年度には、コミュニティバスの時刻表や暮らしの便利帳に指定文化財の位置及び解説等を盛り込んでもらい、少しでも住民の目に情報が触れるように努めたが、さらなる活用の検討をしなければならない。</p>		
平成 24 年度 の目標又は 改善策	<p>毎年開催している伝統芸能発表会は、平成 24 年度をもって第 10 回目となり、さらに町制 50 周年も重なることから、普段参加されていない地区の皆さんにも参加を呼びかけ、発表会で披露していただく団体を増やし、これを伝統芸能を盛り上げる一つの契機となるようにする。さらに、大口北小学校との交流会も引き続き開催し、子どもへのアピールも続けていく。</p> <p>文化財の普及啓発活動をさらに拡充するため、史跡であれば、現地での講演会・イベント等を実施し、新たな活用方法の検討をする。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
	<p>伝統芸能の保存・継承</p> <p>5 学校連絡会にて、伝統芸能保存会と小学校の交流事例を宣伝・交流事業の提案をする。</p> <p>6 伝統芸能保存会会議内で、各地区の現状聞き取り及び今後継承へ向けての議論を実施。</p> <p>10 伝統芸能発表会を例年よりも参加団体を増やして実施。 大口北小学校との交流会。他の学校でも条件が整えば実施する。 (※毎年7月に実施していたが、気候等の条件により、春ないし秋に実施する可能性あり)</p> <p>文化財の普及啓発活動</p> <p>8 文化財に関するイベント・講演会等を検討・実施。 その他、文化財についての認知度を高めるため、その啓発と活用を研究して実施。 文化財マップを活かす文化財の啓発と新たな活用について、適宜検討しつつ実施。</p>

□3年間の目標

目標	・ ・					
項目（単位）	H22 計画	H22 実績	H23 計画	H24 目標	H25 目標	H26 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H25 年度	・ ・
H26 年度	・ ・

■事業コスト

		単位	H22 年度決算額	H23 年度当初予算額	H24 年度計画額
事業費		千円	5,615	5,736	2,967
(内特定財源)		千円	1,408	1,493	30
人工	職員	人工	1	0.5	0.5
	臨時職員	人工	0.2	1	1
	計	人工	1.2	1.5	1.5

■平成 24 年度計画特定財源内訳

(単位:千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
その他	30	町史、遺跡報告書等売払い
合計		

■平成 24 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位:千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
臨時	伝統芸能発表会出演者報償金	140	40	今年度は、10回目という節目であり、かつ町制50周年の年度でもあるので、普段参加していない地区(豊田・余野)にも参加していただき、例年より内容を膨らませて開催するため。
臨時	獅子屋形等保険料	421	114	
臨時	獅子屋形等運搬業務委託料	100	20	
廃止	小口城址発掘調査報告書作成業務委託料	0	△2,426	平成22年度より2年計画で実施した国庫補助事業(1/2補助)が平成23年度で完了したため。
廃止	印刷製本費	573	△500	

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

伝統芸能関係のイベントである、秋の伝統芸能発表会が雨天で中止となってしまったが、大口北小学校では、「ふるさと大口・お祭りたいけんひろば」を実施した。また、伝統芸能保存会の会議において、後継者問題に対する各地区の状況等の意見交換を行い、維持・継続ができるような活動へ向かうよう努めた。

文化財に対する町民への啓発活動は、今年度余野区より依頼を受け、10月から3月まで、月1回のペースで現地見学も含めた地元の文化遺産に関する講座を実施。また、指定文化財となっている秋田区、長桜天神社のマメナシの樹生保護活動ついて、樹木保護関係を専門とするNPO法人と、地元の氏子とともに進めた。

■ 評価

秋の伝統芸能発表会は、準備はしたものの、当日雨天により中止となってしまったため、各地区の伝統芸能保存会の方々が練習した成果を披露する場を提供できず、非常に残念であった。しかし、その後に開催した大口北小学校の「ふるさと大口・お祭りたいけんひろば」では、子どもとのふれあいにより、参加された保存会の方々が非常に生き生きと教えている姿を目にすることができた。このような活動を地道に進め、広げていくことにより、地域に残る伝統芸能の活性化を図っていきたい。

文化財への普及啓発活動については、現地での講演等実施することができ、町民に対し文化財への理解を深める一助となることができた。この動きを単発で終わらせないためにも、今後も継続して取り組んでいきたい。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	歴史民俗資料館	No.	02
事業名	歴史民俗資料館運営事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	先人の培ってきた営みを現在に伝え、郷土「おおぐち」に関する事柄や、美術分野の展示等により、町民の知的欲求に応える場とする。また、学校の授業やグループ学習、休日の子どもの学びの場として、家庭・子どもの教育に貢献をする。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回の企画展開催 ・常設展示室の管理 ・展示解説及びそれに係る調査研究 ・文化財収蔵庫の管理 <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品の電算登録作業と管理 ・学校授業での見学受け入れと出前授業 ・学芸員実習生の受け入れ（一週間） ・年報、展示図録、研究紀要等の発行 		
現在における経過又は課題	<p>季節ごとに年4回開催している企画展のうち、冬の企画展「ひなまつり」は、お内裏様とお雛様の衣装を着て写真を撮るコーナーが好評で、大変多くの方々に利用されている。しかし、未だ“歴史民俗資料館”の存在自体を認知していない町民も多いため、認知度を深め、企画展の有無に関わらず、来館者数の増加を目指さなければいけない。</p> <p>各小中学校においては、授業での資料館・文化財収蔵庫の利用や、グループ学習の場として利用していただいているが、さらに連携を密にしていかなければならない。</p> <p>平成22年度より推進している文化財収蔵庫内の収蔵品（主に有形民俗文化財）の電算登録と整理について、専門的知識を持たない臨時職員に対する教育の割合が多かったため、今年度は計画どおりに進んだとは言えない。よって、改めて計画を策定し、収蔵品の有効活用を拡充できるようにしなければならない。</p>		
平成24年度の目標又は改善策	<p>企画展については、地域に根ざしたもの、住民参加型の展示、学校との連携がやりやすい展示など、工夫しながら来館者数の増加を図りつつ、町民に対する資料館の認知度を深めていく。また、宣伝方法も従来の方法を踏まえた上で、新たな方法を模索する。</p> <p>各小中学校との連携を深めるため、活用・出前授業等のメニューを資料館の方から提案して積極的に呼びかけていく。</p> <p>文化財収蔵庫内の収蔵品整理は、新たに計画を練り直し、北棟・南棟の1階全てを完了させる。今年度からは、教育を受け専門的知識を持った臨時職員を張りつかせて事業を推進していく。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	学校連絡会等で、資料館と連携してどのような事業を展開できるのか提案する。
5	各小中学校へ出向き、直接担当の先生方と話し合い、学校側からどのようなニーズがあるのか聞き出し、事業の具現化を目指す。
6	3年生及び4年生の授業「公の施設」や「昔の道具」で資料館を活用。
10	中学生のグループワーク等による活用。
	年4回の企画展の充実と、企画展の宣伝方法を内容によって検討しながら工夫する。 企画展についてより門戸を広げ、住民が身近に感じやすい展示方法（参加型）などを検討。
	文化財収蔵庫内の収蔵品（特に北棟・南棟1階）の整備を推進する。

□3年間の目標

目標	・ ・					
項目（単位）	H22 計画	H22 実績	H23 計画	H24 目標	H25 目標	H26 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H25 年度	・ ・
H26 年度	・ ・

■事業コスト

		単位	H22 年度決算額	H23 年度当初予算額	H24 年度計画額
事業費		千円	12,067	11,941	11,203
(内特定財源)		千円	139	35	40
人工	職員	人工	1	0.5	0.5
	臨時職員	人工	1.8	1	1
	計	人工	2.8	1.5	1.5

■平成 24 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
その他	40	図録等売払、広告収入
合計		

■平成 24 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
廃止	修繕料	50	△315	小口城址公園野外展示物の修繕が完了したため。

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

年4回実施する企画展のうち、春の企画展「端午の節句」と冬の企画展「ひなまつり」は昨年度と同様に実施。夏及び秋の企画展では、本年度が町制50周年にあたることから、大口村から大口町のあゆみをテーマに開催した。さらに夏の企画展と並行して、小中学校の夏休み期間中、自由研究のヒントとなるようなトピックを展示し、その場で勉強できるスペースを設けた。また、今年度より企画展の周知方法として、従来のポスター配布先に加え、コミュニティバスにも掲示してもらい、バス利用者への周知を図った。

小中学校との連携授業については、これまで「見学」に重きを置いた内容から、「触れて体験する」内容へと変化させ、より質の高い教育となるよう努めた。

文化財収蔵庫内の整理は、今年度当初に目標を新たに設定し、北棟・南棟1階における収蔵品を対象に実施した。

■ 評価

企画展の中で毎年開催している「端午の節句」及び「ひなまつり」は、昨年度より来館者が増加しており、町内外問わず浸透してきた結果である。夏・秋の企画展では、特に約50年前の大口町の映像資料が大変好評であり、当時小学生～中学生だった年代の方々に興味を持って観ていただいた。来館者数は、昨年度より増え、10,356人という過去最高の記録であった。この水準を落とさぬよう、より町民に浸透し、さらに利用していただけるような資料館運営を推進していく。

小中学校との連携授業も内容を変化させることにより、子どもたちがより身近に郷土の文化遺産を体感してもらうことができた。

文化財収蔵庫内における収蔵品整理は予定通り進んでおり、整理が完了した資料については、活用方法も含め検討していかなければならない。